

紀要 43 号の刊行に当たり

世界の情勢は大きく変わろうとしている。中東情勢の行方、英国の EU 離脱、米国の新政権誕生等目まぐるしい速度で世界は動いている。それらに伴って日本を取り巻く国際情勢も予断を許さない。沖縄の基地問題、北方領土、東アジア情勢などは上記と無縁ではない。世界秩序の新たな構築、そして再編へと続く過程の中で、日本はどのような舵取りをするべきか、今そのことが問われている。

さて、この紀要 43 号は、特集「異文化理解」を設けて、研究論文を国内外から募集した。幸い、質の高い論文が集まったように思える。まずパプアニューギニアを舞台とした社会科学的な研究論文が投稿された。パプアニューギニアが旧宗主国から独立したのが 1975 年のことである。しかし、ニューギニアはもともと村落を基本とした社会だった（今日でもそうである）ので、人びとの間に国家という意識がきわめて希薄であるように思える。そのような状況で、日常的に起る部族間の紛争を西洋的なアプローチで解決するのは難しい。メラネシアの流儀を軽視する限り、根本的な解決には至らないであろう。

次に言語教育を通して見た異文化理解の諸問題を本誌に掲載することができた。英語の多様化、国際化が進行する今日の世界で、日本英語が教育の現場で、そしてアジアという文脈の中で果たす役割は大きい。日本英語の持つ規則性、他の英語変種との関連性、そしてアジア全域における体系性について考察がなされた。このような地道な実践が積み重ねられてはじめて、国家間の外交のための力が養われると言っても過言ではないだろう。

最後に、前後期に行われた公開講座と国際理解サロンの講演の報告または要旨をまとめている。公開講座では、イスラム問題と東アジア情勢について取り上げることができた。会場の SAYAKA ホールには毎回熱心な市民にご来場いただいている。そしてサロンでは、ビジネスについて扱うことができた。こちらは学内で行なわれ、学生、教職員、市民の皆さんが学生ホールに集い、意見交換をすることができた。

紀要の中に、「国際理解の現在」を読み取っていただければ幸いである。

2017 年 9 月

国際理解研究所
所長 岡村 徹

